

# お菓子のお城が できるまで

夢プロジェクトの名のとおり「お菓子のお城」は子どもの夢そのもの。だから、その製作も児童一人ひとりが「夢の形」を描くことから始まりました。およそ 100 個のダンボール箱を使って作られた「お菓子のお城」ができるまでをご紹介します。

## ステップ① まずは夢を絵にして



▲一人ひとりが描いた「お菓子のお城」は夢の設計図。



●笠井百合菜さん（2組）  
「お菓子を貼り付ける作業が楽しかったです。」



●植木貴大くん（1組）  
「いろんな飾りを作るのがとても面白かったよ。」

## ステップ② ダンボールで基礎をつくる

▼ダンボールを積み重ねてお城の形を決めていきます。



## ステップ③ ダンボールの壁に色塗り

▼カラフルなアクリル絵の具でお城の壁に色を塗ります。



## ステップ④ 飾りをつくる

▲きれいな飾りをたくさん作ってお城を飾りつけていきます。



## ステップ⑤ 仕上げにお菓子を貼り付けて完成

▲できあがったお城のいたる所にお菓子を貼り付けて「夢のお城」の完成です。

夢  
いっぱい!

「こんなダイナミックなことを体験できて良かったです。」



「お菓子のお城」プロジェクトを指導した高千帆小学校教諭

山本 浩一 さん

「上出来ではないでしょうか。」～赤青黄色に塗られたダンボール箱で組み上がった「お菓子のお城」の周りで児童と保護者が楽しそうにドーナツを食べている光景を前に、2年2組担任の山本先生は充実感いっぱいの表情を浮かべていました。

国民文化祭にあわせて子どもたちの夢やアイデアを実現しようと企画された「子ども夢プロジェクト」に、担任していた1年生のクラスで応募したのは昨年6月のこと。「何か作って食べたい」「大きいものをつくりたい」「みんなで何かつくりたい」というクラスの子どものアイデアを聞いているうちに、先生の頭にひらめいたのが「お菓子のお城」だったそうです。「お菓子を食べてはいけない学校で、お菓子を使って何かするっていうのも面白いなあと思ったのです。」  
とはいえ、いざ製作に取りかかってみるとなかなか当初の計画どおりにはいかないうえ、先生への負担も予想以上に大きいものでした。「段ボールの数が全然足りなかったり、絵の具で床が汚れたり、色々たいへんでしたね。最後の数日は夜遅くまでがんばって何とか間に合ったというのが正直なところです。保護者のみなさんの協力にも感謝します。」と完成までの日々を振り返る山本先生。

「お菓子のお城」の今後については、取材当時は未定でしたが、おそらく壊されてしまうとのこと。「児童がやがてこの小学校を巣立っていくときに、忘れられないイベントの一つになれば、がんばった甲斐もありますね。」と話す山本先生。お城は消えても、児童の心の中にはもう一つの「ヘンゼルとグレーテル」が素敵な思い出としていつまでも心に残ることでしょう。